

令和 7 年度 事業報告書

自 令和 7 年 4 月 1 日

至 令和 8 年 3 月 31 日

1. 青少年活動

日本の将来を担い未来を築く青少年が、健康な身体を養い豊かな感性を磨き、有為な青年に成長することを目的に、基本理念である“愛と汗の精神”に基づいた本団の活動と一致するSDGsの取組みに添って、自然体験・社会奉仕体験を中心とした青少年健全育成活動の充実を図った。また、「愛と汗」の実践活動として、フィリピン・ゴミ山などの貧困の中で暮らす子どもたちや震災などの被災者に対する支援活動を継続して展開した。

1. 子ども自然体験活動

“愛と汗の精神”に基づいた子ども自然体験キャンプを全国的に開催し、大自然の中で障がい児を含む異年齢の仲間とともに野営による共同生活を通して、様々な課題や困難を乗り越え、自主性、協調性、感受性等を育てるなど、次代を担う青少年の心豊かな人格形成を図った。

(1) 夏期子ども自然体験キャンプ

〈別表-1〉

ア. 「子ども自然体験キャンプ」《文部科学省後援/子どもゆめ基金助成活動》

期 間 8、10月 <3泊4日：道南、桧原湖畔、瀬戸内海
2泊3日：鹿児島、1泊2日：沖縄>
開 催 数 5会場（道南、桧原湖畔、瀬戸内海、鹿児島、沖縄）
スタッフ等 159名
参 加 者 266名（内、障がい児8名）

イ. 連合会等組織共催「子ども自然体験キャンプ」

期 間 8月 <3泊4日：いばらき、岐阜友愛、北部九州
2泊3日：広島>
開 催 数 4会場（いばらき、岐阜友愛、広島、北部九州）
スタッフ等 109名
参 加 者 137名

ウ. 子ども自然体験キャンプ事前調査《子どもゆめ基金助成活動》

No.	キャンプ名	実 施 日	スタッフ
1	道南ふれあい	5月28日(水)～30日(金)	志村 和也・林 春幸
2	桧原湖畔	5月28日(水)～29日(木)	谷野 渉
3	わくわく	5月28日(水)～29日(木)	増田 航介
4	瀬戸内海	6月17日(火)～18日(水)	板倉 和也
5	鹿児島	7月 9日(月)～11日(水)	志村 和也
6	沖縄	6月23日(月)～24日(火)	谷野 渉

エ. キャンプ主事・事務担当者

キャンプ名	主 事	事務担当者	キャンプ名	主 事	事務担当者
①道 南	志村 和也	林 春幸	②桧原湖畔	谷野 渉	鈴木 綾
③瀬戸内海	板倉 和也	中野 淳一 (林 春幸)	④鹿児島	志村 和也	栗原 浩司
⑤沖縄	谷野 渉	鈴木 綾			

オ. 共催キャンプへの講師・スタッフ等派遣

キャンプ名	派遣講師	キャンプ名	派遣講師	キャンプ名	派遣講師
⑥いばらき	谷野 渉	⑦岐阜友愛	板倉 和也	⑧広島	保坂 正志
⑨北部九州	保坂 正志				

カ. 印刷物の作成《子どもゆめ基金助成活動》

①「子ども自然体験キャンプ」リーフレットの作成

部 数 8,000部
体 裁 A4版、4色刷り

②「子ども自然体験キャンプ」報告書の作成

部 数 600部
体 裁 A4版、66頁

(2) 「子どもわくわく自然体験キャンプ」《文部科学省後援/子どもゆめ基金助成活動》

開催日 9月13日(土)～15日(月・祝) <2泊3日>
開催地 ばんだいふれあいぴあ
スタッフ 5名(増田 航介、林 春幸、他3名)
リーダー 22名(高校生以上の青年)
参加者 42名(小中学生)

(3) 冬期子ども自然体験キャンプ

ア. 子ども自然体験スキーキャンプ

開催日 12月26日(金)～30日(火) <4泊5日>
開催地 福島県(ばんだいふれあいぴあ及び裏磐梯スキー場)
指導者 2名(高橋源一郎、鈴木 幸:SAJスキー指導員)
スタッフ SYD職員4名(谷野 渉、増田 航介、林 春幸、嶋田美智雄)、リーダー29名
参加者数 52名

※子ども自然体験スキーキャンプリーダー研修会

開催日 12月24日(水)～25日(木) <1泊2日>
開催地 福島県(ばんだいふれあいぴあ及びネコママウンテンスキー場)
スタッフ 2名(谷野 渉、増田 航介)
参加者数 26名

イ. 報告書の作成

電子版を作成し、参加者・リーダー他関係者に配布予定。

(4) 子ども週末体験活動

週末や連休などを利用して子どもたちが集い、交流・体験活動を行うことで、子どもたちの自主性や協調性、コミュニケーション能力などを培い、チームやグループでの活動を通じて達成感やお互いの信頼を深めるなど、心豊かな人間性を育むことを目的に実施した。

リーダー研修会では、自然体験活動や社会奉仕体験活動を実践している高校生・大学生等の青年が集い、体験活動やその展開方法について講演、協議で知識や技術を習得し

たり、実際の活動を通して、自主性・協調性や相互のチームワークを築く活動を行った。

- ア. WAKU×2 ボランティアリーダー研修会** **〈別表-2〉**
- 開催数 12会場 <各1日～1泊2日間>
 指導者等 22名（講師15名、スタッフ7名）
 参加者 160名

- イ. 子どもWAKU×2ひろば《子どもゆめ基金助成活動》** **〈別表-3〉**
- 開催数 13会場 <各1日～2泊3日間>
 指導者等 188名（講師22名、リーダー162名、ボランティア4名）
 参加者 350名

（5）夏期少年少女合宿講習会（伊勢青少年研修センター）

ア. 夏期少年少女合宿講習会（各地青年会議所等共催）会場：伊勢青少年研修センター

期 日	共催団体名・事業名	参加者数
7月23日(水) ～ 25日(金)	一般社団法人伊勢青年会議所 「第51回伊勢少年少女合宿講習会」	99名
7月28日(月) ～ 30日(水)	一般財団法人日本教育再生機構大阪茨木支部 寺子屋伊勢合宿	54名
8月 1日(金) ～ 3日(日)	一般社団法人岸和田青年会議所 「第34回岸和田少年少女サマースクール」	49名
合 計	3回	202名

（6）自然体験交流合宿（伊勢青少年研修センター主催事業）

ア. 伊勢・近江自然体験交流合宿

開催日 8月9日（土）～12日（火）<3泊4日>
 会 場 あいきょうの森キャンプ場（滋賀県）
 対 象 小学2年生～6年生
 参加者 33名

イ. 千葉子ども自然体験交流合宿

※8月に開催予定だったが、参加者・リーダーが集まらないため中止とした。

（7）週末体験（伊勢青少年研修センター主催事業）

ア. 青年リーダー育成

※5月と11月に開催予定だったが、リーダーが集まらないため中止とした。

イ. クリスマス会

※12月に開催予定だったが、参加者・リーダーが集まらないため中止とした。

2. 子どもボランティア推進活動

“愛と汗の精神”に根ざした様々なボランティア活動を実践することにより、人のため、社会のために行動することの素晴らしさや真の喜びを体感し、お互いに理解し合い、分かち合い、豊かな感性を磨き、思いやる心や心豊かな人格形成に寄与する活動を行った。

(1) 幸せの種まきキャンペーン《文部科学省後援》

地域・学校（生徒会・ボランティア部）、PTA等と連携を図り、これまで実践しているフィリピン等での支援活動を紹介した。ストリートチルドレンやスカベンジャーなど「貧困と共に生きる子どもたち」の現状や貧しくとも親を助け懸命に生きる姿を通して、ボランティア精神を涵養し、他者への思いやり、命の大切さ、親や周りの人への感謝など、青少年の豊かな心を育むことを目的として全国的に開催した。

ア. 幸せの種まきキャンペーン「出前講座・課外授業」

〈別表－４〉

開催数 37会場
 派遣講師 各2名（山口千恵子、谷野 渉、増田 航介）
 体験発表 7名（入江里香、沖本優弥、水上雄太、岡部幸太朗、今井優里、山下晏門、飯島理央）
 参加者 3,727名

イ. パンフレットの作成・配布

部数 100部
 体裁 A4版、8頁、4色刷
 配布先 1,000ヶ所（在庫を発送）

(2) 青年ボランティアゼミナール

開催数 3回
 講師 19名（国内外のボランティア経験者等に委嘱）
 会場 SYD会議室及びオンライン（Zoom）
 対象 全国の青年リーダー
 参加者 88名

回数 (通算)	実施日	テーマ	講師	出席者数
第128回	4月11日(金)	人生を変える冒険を ～世界青年の船～ ～東南アジア船～ ～国際社会青年育成事業～	藤村 和輝 沖 和樹 森山 倫 (大学生)	33名
第129回	8月11日(月祝)	「友情 AMIZADE」 ～ブラジルと日本～	永山 ミキ 草野 ヴィクトル ゆうじ	23名
第130回	9月26日(金)	「青年ボランティア・アクション inフィリピン」活動報告 旅が教えてくれた 発展する世界の裏で私たちが失ったもの	安岡 旺祐 他12名	32名
第131回	3月31日(火)	—	結城 宏斗	一名
※オンラインと対面で開催 ※第131回は講師との日程が合わず中止			19名	88名

3. SYD指導者の養成

自然体験や社会奉仕体験などのさまざまな実践活動を行い、自ら活動の楽しみや喜びを体得するとともに、子どもたちを安全に導きながら体験活動を積極的に推進するための知識や技能を修得し、“愛と汗の精神”を日常的に実践するSYD指導者の養成に努めた。

(1) 全国青年アカデミーキャンプ in 福島《文部科学省後援/子どもゆめ基金助成活動》

全国から集った中高生等の青少年が異年齢の仲間とともに大自然の中でキャンプ（共同生活）を実施。自然の素晴らしさや厳しさを感じながら、自然体験活動を積極的に推進するための知識や技能を習得するとともに、国連が定めるSDGs（持続可能な開発目標）に添った学びの場やテーマについての協議を行う中で、他者を思いやる心や積極的に汗を流せる自主性、コミュニケーション能力などの次代を担う青少年の心豊かな人格形成を図った。

期 日 7月31日(木)～8月4日(月) <4泊5日>

会 場 ばんだいふれあいぴあ

スタッフ 6名(岩佐加寿子、山口千恵子、板倉 和也、谷野 渉、増田 航介、林 春幸)

参加者 23名(全国の中学生及び高校生等)

(2) 《創立120周年記念》全国青春ボランティア・フェスティバル in 東京【新規】

青年たちによって創立されたSYDでは、120周年の創立記念を祝し、“青年の手による”未来志向の活動を行った。ボランティア活動を通して、気づきや思いを発信する機会として開催し、そこから明るい社会を築くためには、自分に何ができるかを考え、今後の活動の促進を図った。

期 日 令和8年3月20日(金・祝)～22日(日) <2泊3日>

会 場 国立オリンピック記念青少年総合センター

スタッフ 4名(谷野 渉、林 春幸、嶋田美智雄、鈴木 綾)

参加者 66名(内 実行委員15名)

ア. 実行委員会の開催

期 間 令和8年2月14日(土)～15日(日) <1泊2日>

開催地 国立オリンピック記念青少年総合センター

講師 毛利 大介

スタッフ 5名(山口 千恵子、谷野 渉、増田 航介、林 春幸、嶋田 美智雄)

参加者数 15名

(3) ボランティア・アクション

No.	協力団体	実施日	会場名	講師スタッフ	参加者
1	沖縄ヤングジェネレーション(沖縄)	6月21日(土)～22日(日)	沖縄県立玉城青少年の家	宮城 守 スタッフ5名 谷野 渉	24名
2	SYD青年部(瀬戸内海)	11月29日(土)～30日(日)	四国こどもとおとなの医療センター ほか	板倉 和也	27名
合 計				8名	51名

* 報告書の作成

上記3事業【(1)～(3)】等の報告書を作成し、事業の成果を広く一般に広報する。

部 数 400部

体 裁 A4版、100頁

4. 青年組織育成活動

“愛と汗”の精神に基づいた自然体験・社会奉仕体験活動を年間を通して実践する青年部組織の育成・充実のため本団講師の派遣や活動資金の助成を行った。

(1) 青少年活動(キャンプ)担当者会議

期 日 4月20日(日)＜3時間＞
会 場 オンライン開催 (Zoomにて)
スタッフ 8名 (山口千恵子、市島 寿里、板倉 和也、谷野 渉、増田 航介、林 春幸、保坂 正志、志村 和也)
参 加 者 13名(各地キャンプ担当者)

(2) 《創立120周年記念》青少年活動指導者の集い「全国おとな自然体験キャンプ」

期 日 4月27日(日)～29日(火・祝)＜2泊3日＞
会 場 ばんだいふれあいぴあ
スタッフ 谷野 渉、板倉 和也、林 春幸
参加者数 13名(各地キャンプ担当者)

5. 関係機関・団体との協力

〈別表-5〉

青少年の健全育成ならびに社会教育に寄与する活動の充実を図り、青少年教育及び社会教育の関係機関・諸団体との協力・連携を図ることを目的に、会議出席するなどの活動を行った。

6. ばんだいふれあいぴあ整備他

(1) 「夏期事業準備、片づけ」

ア. ばんだいふれあいぴあ整備

期 日 6月13日(金)～15日(日)＜2泊3日＞
スタッフ 谷野 渉、鈴木 綾、林 春幸
参 加 者 6名 (関東圏・福島県の高校生、大学生等の青年)

イ. ばんだいリーダーの集い

期 日 10月25日(土)～28日(火)＜3泊4日＞
スタッフ 谷野 渉、鈴木 綾、林 春幸
参 加 者 10名 (関東圏・福島県の高校生、大学生等)

2. 国際交流活動

1. フィリピンとの交流事業 (サポーターシッププログラム)

フィリピンケソン市パヤタスやマニラ市のゴミ山で働くスカベンジャーの子どもたちを訪問し、ボランティア活動・交流活動・支援活動の実践をとおして友好と相互理解を促進した。このことにより、SDGsの目標である「貧困」や「飢餓」などについて深く学び、他者への思いやりや命の尊さ、またより良い社会のために活動する精神を培うなど、自ら生きる意味を模索し、国際協力の精神を涵養し、学校や地域で活動する青少年指導者を育成することを目的に開催した。

(1) 《創立120周年記念》「フィリピン子ども親善大使招聘事業」【新規】

夢や希望を抱き、家族を支え、ゴミ捨て場周辺で働きながら学校に通う子どもたちを招聘し、日本の青少年との交流を図り日本文化に触れるなど、彼らの夢の実現に協力し、生きる希望を持つ機会とし、また、日本の青少年が彼らの力強く生きている姿からたくさんの方の事を学ぶことを願って実施した。

期 日 令和8年3月17日(火)～24日(火)＜7泊8日＞

招 聘 者 15名（青少年13名、現地指導者2名）
スタッフ 2名（山口千恵子、増田 航介）
主な活動 創立120周年記念大会でのパフォーマンス、日本青年との交流、日本文化視察体験

（2）青年ボランティア・アクションinフィリピン（第22回）《文部科学省後援》

期 日 8月19日（火）～25日（月）＜6泊7日＞
訪 問 地 フィリピン（マニラ市、ケソン市他）
指 導 者 2名（山口千恵子、増田 航介）
参 加 者 28名（全国の満15歳以上の中学生、高校生、大学生等の青年）

※事前調査

期 日 7月17日（木）～22日（火）＜4泊5日＞
派 遣 者 1名（増田 航介）
会 場 フィリピン（マニラ市、ケソン市他）

（3）創立120周年記念「SYDハウスの設置」のための検討【新規】

2001年より20年以上にわたりフィリピンのゴミ山での「青年ボランティア・アクション in フィリピン」を実施し、教育支援や交流活動を継続してきた。

創立120周年を機に、これまでの活動を礎に〈学習環境の整備〉〈学び〉〈食〉〈交流〉等を軸に、学校以外の教育サポートや配食サービス等の継続的な支援とサポート体制を整えるための支援拠点「SYDハウス」の設置に向けて検討を開始した。これにより「幸せの種まき運動」を現地の若者を中心に展開し、地域に根付かせるため事業内容を精査、運営体制の具体化を図る。

（4）「青年ボランティア・アクションinフィリピン」支援バックの作成作業

期 日 8月11日（月・祝）＜1日間＞
スタッフ 3名（山口千恵子、市島 寿里、増田 航介）
参 加 者 43名

（5）フィリピン事業の報告書の作成・配布

上記（1）の報告書を作成・配布
部 数 250部
体 裁 A4版，66頁

2. ブラジルとの指導者交流事業

（1）ブラジル指導者の招聘

ブラジル修養団の推薦する指導者及び青年リーダーを招聘し、伊勢講習会や子ども自然体験キャンプ等への参加・研修をすることにより、ブラジルで開催される少年少女講習会等で活躍する青少年指導者の養成を図った。

ア. ブラジル青年リーダーの招聘

期 日 7月16日（水）～8月14日（木）＜30日間＞
招 聘 者 永山 ミキ（30歳・社会人）
草野 ヴィクトル ゆうじ（29歳・社会人）
主な日程 本部研修、伊勢研修、ばんだいふれあいぴあ研修、都内視察ほか

イ. ブラジル修養団役員の招聘

期 日 令和8年3月17日(火)～28日(土) <12日間>
 招 聘 者 蓮沼 アレシャンドレ 秀男(46歳・修養団ブラジル連合会会長)
 大竹 ファビアナ るみ(31歳・修養団ブラジル連合会役員)
 主な日程 創立120周年記念大会参加、青春ボランティア・フェスティバル参加、
 関東・伊勢視察ほか

(2) ブラジルへの指導者派遣

期 日 令和8年1月6日(火)～2月12日(木) <38日間>
 派 遣 先 ブラジル(サンパウロ、モジ、スザノ、マリンガ他)
 派 遣 者 谷野 渉(講師・青年部)
 主な活動 少年少女講習会、リーダー研修会、講演会等

期 日	事 業 名	参加者	リーダー	スタッフ ボランティア等	講演会	計
1/9-11	スザノ講習会	115名	46名	14名	53名	228名
1/16-17	モジ・ダス・クルーズ講習会	120名	42名	5名	42名	209名
1/20-22	アサイ講習会	98名	24名	54名	—	176名
1/23-25	マウア・ダ・セーハ講習会	51名	23名	41名	31名	146名
1/27-29	ロンドリーナ リーダー養成研修会	41名	12名	5名	—	58名
1/30-2/1	マリンガ修養林間学校	107名	27名	37名	50名	221名
2/7-8	サンパウロリーダー研修	44名	— 名	2名	—	46名
講習会・講演会 合計		576名	174名	158名	176名	1084名

公益 2

3. 講習会・講演活動

1. 伊勢講習会 会場：伊勢青少年研修センター

(1) みがく講習会(定例講習会)

<別表-6>

開催数 5回 <各3泊4日>
 参加者 190名(平均38名、定員各60名)
 対 象 企業の新入社員・中堅社員・幹部社員他

(2) みがく特別講習会

<別表-7>

開催数 3回 <各1泊2日>
 参加者 210名(平均72名、定員各100名)

(3) 特別講習会

ア. 神嘗祭講習会

期 日 A初穂曳コース：10月15日(水)～17日(金) <2泊3日>
 B神嘗祭コース：10月16日(木)～17日(金) <1泊2日>

参加者 A：54名(定員50名)、B：3名(定員50名)
 対 象 一般社会人

(4) 受託講習会

〈別表－8〉

開催数 18回（前年度15回）
参加者 851名（前年度857名）

(5) 貸会場

〈別表－9〉

開催数 17回（前年度15回）
利用者 596名（前年度588名）

(6) 講師派遣（講演・講習活動）

〈別表－10〉

開催数 8回（前年度13回）
参加者 765名（前年度1,125名）

2. 関東・東北地区等講習会

(1) リフレッシュセミナー

期 日 令和8年2月17日（火）～19日（木）＜2泊3日＞
会 場 LAKE SIDE HOTEL みなとや（福島県猪苗代町）
講 師 4名（鈴木 義信、山崎 一紀、志村 和也、板倉 和也）
参 加 者 9名（男性9名）

3. 受託セミナー

〈別表－11〉

(1) 一般社員セミナー

ア. 1日コース

開催数 4回
参加者 272名

イ. 2泊3日コース

開催数 1回
参加者 16名

(2) 新入社員セミナー

ア. 1日コース

開催数 4回
参加者 192名

イ. 2泊3日コース

開催数 1回
参加者 16名

4. 企業・組織訪問

講演会・講習会の参加者募集や実施及び団運動の拡大を目的として企業・組織を訪問した。

期 日	訪問地域	訪問社数	訪問者
11月17日（月） ～19日（水）	福島県	15社	志村

4. 家庭教育活動

1. 家庭《共育》ひろば

親子や家族のあり方、高齢社会での世代間交流など、身近な課題に取り組むとともに、楽しい子育て、幸せな家庭、生き生きとした地域社会の実現を目指し、「ファミリーキャ

ンプ」を初めて実施した。

(1)「家庭《共育》ひろば」『ファミリーキャンプ』

開催日	会 場	参加者数 リーダー	講師
1 1 月 2 2 日(土) ～ 2 3 日(日)	千葉県柏市 県立手賀の丘青少年自然の家	2 4 名 1 0 名	保坂、志村、板倉

5. 会員・組織活動

1. 「幸せの種まき運動」の推進

会員及び会員組織と連携を図るとともに、諸団体にも呼びかけ、「愛と汗」を基本に下記事業を展開し、心ひとつにして「幸せの種まき運動」の推進を図った。

(1)「“愛と汗” 幸せの種まきセミナー」

開催日	会場	実施団体	参加者数	講師
6 月 1 5 日(日)	喜多方プラザ 文化センター	〔共同主催〕 渋沢栄一と喜多方の 偉人講演会実行委員会、 喜多方市中央公民館	1 5 0 名	宝井 琴鶴 真下 淳一

※「渋沢栄一と喜多方の偉人 講演と講談」として実施

(2) Z o o mでオンライン「“愛と汗” 幸せの種まき講演会」

開催日	講師	演題	参加者数
7 月 1 2 日(土)	保坂 正志 (修養団講師)	「きっかけはどこにでもある」	2 5 名
1 月 3 1 日(土)	古賀 克彦 (修養団評議員・ 北九州市立小学校校長)	「いいつながりは人生を豊かにする」～これまでの教師生活と SYDでの活動を振り返って～	2 6 名
合 計	2 回		5 1 名

(3) 第 1 7 回「チャリティー演芸会」～笑いは梅雨しらず？の巻～

ーストリートチルドレン支援ー

落語・講談が披露され、会場は大爆笑に包まれた。会場へ足を運べない方々に「心の参加者」として広く寄附のご協力を呼びかけ、1 2 件・1 7 0, 0 0 0 円の献金が寄せられた。(下記の収益金には含まず)

期 日 6 月 2 0 日(金) 1 8 時 3 0 分～2 0 時 3 0 分

会 場 SYDホール

出 演 者 立川 吉笑、立川 らく次、宝井 琴鶴、立川 笑えもん

来 場 者 9 6 名

スタッフ 1 4 名(職員・ボランティア)

※収益金 1 3 1, 6 3 2 円を「幸せの種まき献金」へ繰り入れた。

(4)「幸せの種まき祭り」ーストリートチルドレン・災害被災者支援ー

「チャリティーバザー」を開催し、全国のSYD連合会・クラブをはじめ、趣旨にご賛同いただいた企業から提供された特産品や衣類のほか、北海道、埼玉県、岐阜県の会員から届いた新鮮な野菜を販売した。また、SYDビルの主要テナントである㈱フジタの社員を主対象に、ミニバザーと同社リフレッシュスペースでの無人販売を実施した。

期 日 11月8日(土) 12時～14時

(ミニバザー、無人販売は11月10日(月)～12日(水)に実施)

会 場 SYDビル正面広場、SYDホール

参 加 者 約200名(近隣住民および会員など)

※収益金695,423円を「幸せの種まき献金」へ繰り入れた。

(5) 第9回「東京ベルズ」ハッピーヴォイスチャリティーコンサート

ーストリートチルドレン・災害被災者支援ー

NPO法人「東京ベルズ」の協力によるチャリティーコンサートを開催した。

東京ベルズによるアカペラコーラス中心のプログラムで進行し、昨年に続き「さいたまシティジュニアコーラス」のメンバーが賛助出演した。また、特別企画「支援をはじめて20年以上～フィリピンのゴミ山周辺で生きる子どもたち～」では、SYD職員(山口千恵子、増田航介)および青年リーダー1名が映像を交えて講演した。

会場へ足を運べない方々に「心の参加者」として広く寄付のご協力を呼びかけたところ、30件・236,000円の献金が寄せられた。(下記の収益金には含まず)後日、ご寄付をいただいた方に対して、当日の動画を配信した。

期 日 12月7日(日) 14時～16時

会 場 SYDホール

来 場 者 125名

出 演 者 高牧 康、御幸 りか、花岡 るみ、古谷万理子、白瀬 恵、松本 久志、古葉 映、ラジアン円、さいたまシティジュニアコーラス

※収益金118,012円を「幸せの種まき献金」へ繰り入れた。

2. 会員組織活動への支援など

(1) 講師・役職員の派遣

6月21日 修養団愛汗郡山「第20回定例総会」
8名(福島県郡山市・ベルヴィ郡山館)

【志村】

7月 9日 修養団愛汗喜多方「令和7年度総会」
10名(福島県・喜多方市厚生会館)

【真下、保坂】

7月10日 修養団福島県連合会「令和7年度通常総会」
19名(福島県郡山市・㈱ヨークベニマル本社)

【山崎主幹、真下、保坂】

(2) 活動助成金の支出

クラブ・連合会の活動の拡充と活性化を図ることを目的とし、修養団のクラブ・連合会がおこなう活動に助成金3万円を交付した。

①修養団伊勢いなほの会「京都御所清掃奉仕」

(6月27日・京都御所/参加者20名)

②SYDいばらき「キャリア設計ワークショップ」

(10月11日～12日・ぼんだいふれあいぴあ/参加者10名)

(3)「SYDかわらばん〈最新活動情報〉」の発行・送付

SYD事業や会員組織活動の最新情報を届けることを目的に、毎月20日頃(8月を除く)に各600～700部(2頁～4頁)を発行し(N0.195～205)、クラブ・連合会・評議員等へ送付するとともに、事業参加者等に手渡し配布した。

また、その全記事をSYDホームページ「webかわらばん」で紹介した。

令和8年3月に発行したNo.205をもって印刷発行を終了。以降はホームページで活動報告を公開することとした。

3. 会員状況と会員組織

諸事業において、資料に見本誌を入れ配布した。また、「日々の力」や図書を発送する際に見本誌を同封するなどの会員加入促進を行った。

本団主催の講習会(みがく講習会、リフレッシュセミナー)受講者には、事後学習の一助にと1年間にわたり「向上」誌を送付した。発送終了の時期には講習会受講時の感想文とともに、会員加入を依頼した。

(1) 会員の現状

〈別表-12〉

会員種別	当年度(R8.3.31現在)	前年度(R7.3.31現在)	増減
ふれあい会員	46	47	△1
愛会員	159	195	△36
向上会員	918	1,061	△143
永生会員	10,728	10,728	0
合計	11,851	12,031	△180

(2) 後援会会員の現状

会員種別	当年度(R8.3.31現在)	前年度(R7.3.31現在)	増減
法人会員	96	96	0
個人会員	126	134	△8
合計	222	230	△8

6. 幸せの種まき献金活動

1. 募金活動

会員組織、会員及び「幸せの種まきキャンペーン《出前講座》」実施校などを通じて募金活動を行った。

		7年4月	5月	6月	7月	8月	9月
月計金額		146,464	197,498	661,191	146,368	346,746	367,467
《一般献金》		54,464	153,498	505,191	45,309	219,546	39,121
《指定献金》		92,000	44,000	156,000	101,059	127,200	328,346
指定献金内訳	災害支援	0	0	12,000	20,000	0	0
	子ども学資支援	58,000	20,000	60,000	20,000	60,000	80,000
	大学生学資支援	0	0	40,000	4,516	0	230,000
	学校支援	34,000	24,000	34,000	56,543	52,200	18,346
	TUシニア芸術教育支援	0	0	10,000	0	15,000	0

	10 月	11 月	12 月	8 年 1 月	2 月	3 月
月計金額	126,295	916,442	1,404,749	524,129	87,568	161,290
《一般献金》	90,195	779,294	388,298	150,129	71,468	144,190
《指定献金》	36,100	137,148	1,016,451	374,000	16,100	17,100
指定献金内訳	災害支援	0	0	0	0	0
	フィリピン					
	子ども学資支援	2,100	40,000	200,000	160,000	0
	大学生学資支援	230,000	2,436	117,910	180,000	2,100
	学校支援	14,000	92,212	39,000	24,000	14,000
	TIUシアター芸術教育支援	0	2,500	659,541	10,000	0

	今年度合計		前年度合計
年間合計金額	5,086,207	(214 件)	6,234,786 (209 件)
《一般献金》	2,640,703	(121 件)	※決算処理及び消費税処理状況により差異が発生します
《指定献金》	2,445,504	(93 件)	
指定献金内訳	災害支援	32,000 (3 件)	
	フィリピン		
	子ども学資支援	718,000 (33 件)	
	大学生学資支援	582,162 (21 件)	
	学校支援	416,301 (28 件)	
	TIUシアター芸術教育支援	697,041 (8 件)	

※心の参加者（一般献金）…チャリティー演芸会 170,000 円（12 件）
 // …東京ベルズコンサート 236,000 円（30 件）

2. 支援活動

ストリートチルドレン支援として、フィリピンの子ども 36 名と大学生 6 名の学資支援及び子どもたちが学ぶ学校への支援をしたほか、国内の災害に対する支援を行った。

〈災害被災者支援〉

・ ミャンマー	2025 年ミャンマー地震被災者支援 ※AAR（NPO 法人難民を助ける会）を通じ支援	300,000 円
・ 岩 手 県	大船渡市山林火災被災者支援	200,000 円

〈ストリートチルドレン支援〉

・ フィリピン：	子ども（幼稚園～高校生）学資支援 （スカベンジャー・36 名）	720,000 円
・ フィリピン：	大学生学資支援（スカベンジャー・6 名）	1,300,000 円
・ フィリピン：	ストリートチルドレンの子どもたち遠足等招待	1,200,000 円
・ フィリピン：	「マザー・テレサの家」（介護用パンツ、目覚まし時計）	40,394 円
・ フィリピン：	スカベンジャーの子どもたちへのプレゼント （レインコート）	200,000 円
・ フィリピン：	「TIUシアター」芸術教育支援（10 万円×12 ヶ月）	1,200,000 円
・ フィリピン：	スカベンジャーの子どもたちへのクリスマスプレゼント （チョコレート）	70,394 円
・ フィリピン：	「パンガラップ・ラーニング・スクール」 （学校運営支援・12 万円×12 ヶ月）	1,440,000 円
合 計		6,670,788 円
前年度合計		11,011,511 円

3. 幸せの種まき献金委員会

(1) 幸せの種まき献金委員会の開催

以下のように定期的に開催し、活動の充実・推進について協議した。

令和7年5月8日、6月9日、7月14日、9月4日、10月2日、11月20日

(2) 報告書の作成・配布

令和6年度活動報告書(1,100部)を発行し、クラブ・連合会、募金してくださった方々に送付した。

公益3

7. 出版・広報活動

1. 機関誌「向上」「愛」の発行

(1) 「向上」

号	発行部数	随想テーマ
4月号	2,200	新たな挑戦
5月号	2,000	私の親友
6月号	2,100	学生時代の宝物
7月号	1,900	心を強くする言葉
8月号	1,900	夏の思い出
9月号	1,900	人生のターニングポイント
10月号	2,100	旅の楽しみ
11月号	1,900	運をつかむ
12月号	1,900	最高の贈りもの
1月号	2,100	初めが大事
2月号	2,200	好きなこと
3月号	2,100	尊いもの
合 計	24,300 部	(前年度26,700部)

(2) 「愛」

号	発行部数	備 考
4月号	800	
5月号	800	
6月号	900	
7月号	800	ふれあい特集号
8月号	700	
9月号	700	
10月号	1,000	
11月号	800	ふれあい特集号
12月号	800	
1月号	900	
2月号	1,100	
3月号	900	ふれあい特集号
合 計	10,200 部	(前年度11,900部)

2. 令和8年版「日々の力」の制作・販売

(1) 制作

題名	「こころ無限大」
作者	〈絵と文字〉小川けんいち（イラストレーター・グラフィックデザイナー）
内容	明るく元気な職場づくり、心温まる家庭づくりのために心がけ、実行したいことを31日分の言葉にまとめ、文字に絵を添えて制作した。
体裁	日めくり式短冊形・33枚、カラー刷り
印刷部数	10,000部(宣伝用含む)

(2) 販売

ダイレクトメールや「向上」誌等で会員や「日々の力」愛好者への普及に努めるとともに、会社・団体の年末年始贈答品としての利用を呼びかけた。

区 分	件 数	部 数
SYDオリジナル	78	1,804
無 地	33	185
注文名入れ印刷	31	5,990
合 計	142件	7,979部
前年度合計	186件	8,603部

※9月9日 顧客や関係企業に案内チラシや見本を送付した。

※9月17日～19日 新潟県下9社を販売促進活動で訪問【保坂】

3. 教育図書の普及、教材の販売

新装版『人生のことば365日』、『蓮沼門三の言葉110』などの図書、研修教材の『人生ガイドー研心』などを普及・販売した。

また、創立120周年記念大会の記念品として制作した『自分を育てる―「蓮沼門三の言葉110」を読む』を新たに教育図書に加え販売することとした。

4. 広報活動

(1) ホームページの充実

SYD事業の予定や報告、参加者募集の呼びかけ、さらにSYDの理解を深めてもらうための各種情報を発信した。

公益4・収益1

8. 施設運営事業

1. 伊勢青少年研修センター

〈別表-13〉

(1) 利用状況

ア. 主催講習会

回 数	10回（前年度15回）
利用者数	457名（前年度816名）

イ. 受託講習会（夏期少年少女合宿講習会を含む）

回 数	21回（前年度15回）
利用者数	1,053名（前年度857名）

ウ. 貸会場

回 数 17回（前年度15回）

利用者数 596名（前年度588名）

※ア＋イ＋ウ＝46回、2,070名（前年度45回、2,261名）

2. ばんだいふれあいびあ

（1）利用状況

〈別表－14〉

利用回数 22回（前年度22回）

利用者数 762名（前年度745名）

延べ利用者数 2,590名（前年度2,602名）

（2）施設修繕等

- ・施設の雪囲い修理（6月）
- ・アウトドアテーブル25台購入（6月）
- ・センター裏倉庫補修工事（7月）
- ・濾過器配管修理（7月）
- ・AED設置（7月）
- ・センター棟屋根改修工事（7月）

3. 修養団SYDビル

（1）SYDホールおよび会議室の貸出状況

ア. SYDホール

回 数 95回（前年度123回）

利用者数 11,780名（前年度11,020名）

イ. SYD会議室（16階）

回 数 13回（前年度8回）

利用者数 150名（前年度120名）

（2）施設の整備等

- ・ホール、会議室の壁面および演台、机等補修工事（6月）
- ・会議室ラウンジカーテン更新工事（7月）

4. 関西会館

- ・テナント（1階、2階部分）の適正管理を行った。

その他

9. 表彰

1. 《修養団創立120周年記念》第20回SYDボランティア奨励賞

（1）募集活動

募集パンフレット18,000部を作成し、《出前講座》開催校、キャンプ開催地県の小学校、全国の中・高・大学へ送付すると共に、関連団体、全国の県・市教育委員会等へ広報依頼をしたところ、全国から合計91件の応募があった。

(2) 選考委員会の開催 ※WEB会議

会場出席、リモート出席を含め7名の委員により選考が行われ、各賞の選考決定を行った。

開催日 令和8年1月13日(火) 11時～12時30分

会場 SYD会議室

出席者 委員6名、内リモート出席委員2名

事務局3名(真下 淳一、岩佐加寿子、山口千恵子)

文部科学大臣賞 1点

東洋大学附属姫路高等学校 地域活性部 PROJECT TOYO (兵庫県)

優秀賞 3点

【小・中学生の部】姫路市立安富中学校 安富町花あじさい復活プロジェクト
(兵庫県)

【高校生部】徳島県立小松島高等学校 南小松島駅活性化プロジェクト
(徳島県)

【大学・一般の部】ひめじでごみひろい(兵庫県)

特別賞 1点

・世田谷区立桜丘中学校 園芸部(東京都)

・徳島県立城西高等学校 植物活用科 阿波藍専攻班(徳島県)

・鈴鹿大学ICC 国際交流サークル 留学生による地域貢献活動(三重県)

※3月20日に開催された修養団創立120周年記念大会の席上、受賞者を代表して、文部科学大臣賞の東洋大学附属姫路高等学校 地域活性部 PROJECT TOYO に対し、文部科学副大臣より受賞の楯を授与した。

(3) 贈呈式

期 日 令和8年3月21日(土) 10時30分～12時

会 場 国立オリンピック記念青少年総合センター 会議室

出席者 54名(受賞関係者15名、来賓2名、全国修養団運動推進会議出席者37名)

内 容 ①主催者挨拶：御手洗理事長

②祝辞：文部科学省総合教育政策局地域学習推進課課長 高木 秀人

③選考経過報告：富士道正尋

④受賞者挨拶・活動報告：5団体

2. 《修養団創立120周年記念》令和7年度功労者表彰

〈敬称略〉

【名誉団員】3名：岡村 精二(山口県)、古賀 克彦(福岡県)、【追贈】三瓶 利正(福島県)

【蓮沼賞】4名：五十嵐 武(北海道)、北川 正美(北海道)、小関 俊美(福島県)、
藪田 秀(東京都)

【表彰】団体：8団体、個人：12名

【感謝状】団体：30団体、個人：45名

10. 諸会議の開催等

1. 理事会

(1) 第1回理事会

期 日 5月22日(木)
出席者 理事：13名(内web出席③名)、監事：1名
山崎主幹
議 題 ア. 令和6年度事業報告について
イ. 令和6年度収支決算について
ウ. 理事の改選について
エ. 令和7年度上期慰労手当の支給について
オ. その他
・ 規程の改訂について

(2) 第2回理事会

期 日 12月22日(月)
出席者 理事：13名(内web出席：2名)、監事：2名
山崎主幹
議 題 ア. 令和8年度事業計画について
イ. 令和8年度収支予算について
ウ. 令和7年度功労者表彰について
エ. その他
・ 次回の理事会の開催日について

(3) 第3回理事会

期 日 令和8年3月25日(水)
出席者 理事：11名(内web出席：1名)、監事：2名(内web出席：1名)
山崎主幹
議 題 ア. 令和8年度事業計画について
イ. 令和8年度収支予算について
ウ. 定時評議員会の招集について
エ. 事務局長の任命について
オ. その他
・ 次回の理事会の開催日について

※事業経過報告書と収支月報の送付

10月14日付けで4～8月までの「事業経過報告書」と「収支月報」を理事・監事・評議員に送付した。

2. 第15回評議員会

期 日 6月7日(土)
出席評議員 13名(内web出席3名)
議 題 ア. 令和6年度事業報告並びに決算について
イ. 令和7年度事業計画並びに収支予算について
ウ. 理事の選任について(交代)
エ. 令和8年度事業計画への要望について
オ. その他
・ 修養団創立120周年記念大会について

- ・全国修養団運動推進会議について
- ・来年の評議員会について

3. 後援会役員会

期 日 7月7日(火) ※=web出席
 出席者 常任幹事: 5名 (弘中聡、高岡英則、平岡真一※、笠原隆、新田一文)
 監 事: 1名 (山根健嗣)
 修 養 団: 4名 (御手洗康、山崎一紀、真下淳一、岩佐加寿子)
 議 題 ア. 令和6年度後援会事業報告・収支決算及び監査報告について
 イ. 令和7年度後援会事業計画(案)並びに収支予算(案)について
 ウ. 令和6年度修養団主要事業報告及び令和7年度主要事業計画について
 エ. その他
 ・修養団創立120周年記念大会について

4. 慶弔

(1) 物故団員・同志ご芳名

沖 縄 県 大城 藤六 殿 9月28日 名誉団員、修養団沖縄がじまる支部初代会長
 神奈川県 保坂 正志 殿 2月 1日 修養団講師、社会教育部長

(2) 物故同志慰霊の集い

7月14日(月)、SYDビル会員ルームにおいて、物故された恩人・先輩・永生会員・同志の慰霊祭を山崎主幹はじめ本部役職員により執り行った。

5. 講師研修会

〈別表-15〉

本団の教育理念および教育事業活動に関する研究・協議を行うとともに、講師相互の研鑽ならびに資質向上を図ることをねらいとしてオンライン(Z o o m)研修会を実施した。

(1) Zoom 講師研修会

開催数 11回

6. その他

(1) 在団理事会の開催

①4月16日、②5月14日、③6月11日、④7月17日、⑤8月17日、
 ⑥9月17日、⑦10月8日、⑧11月13日、⑨12月8日、⑩1月22日、
 ⑪2月18日、⑫3月11日

(2) その他

7月 2日 上期慰労手当支給
 12月 8日 下期慰労手当支給
 12月16日 職員研修会(ハラスメント講習)
 2月12日 役職員による創立120周年式開催

11. 創立120周年記念大会の実施

1. 修養団創立120周年記念大会の開催

秋篠宮皇嗣同妃両殿下ならびに小林茂樹文部科学副大臣が第2部式典にご臨席され記念大会が開催された。会場には全国各地の会員はじめ関係者が集い、「愛と汗」の原点に立ち返り、【Love & Action 愛と汗 とともに未来へ】をキャッチフレーズに、今後も「幸せの種まき運動」を強力に推進していく決意の機会となった。

なお、記念大会については、産経新聞、日本経済新聞、朝日新聞、読売新聞等各誌で報道されたほか、テレビでもFNNニュース、皇室ご一家などで放映された。

開催日 令和8年3月20日（金・祝）

会場 国立オリンピック記念青少年総合センター

記念大会：カルチャー棟 大ホール

祝賀・交流のつどい：国際交流棟 レセプションホール

参加者 記念大会：634名

祝賀・交流のつどい：488名

（1）記念大会 12時30分～15時

ア. 参加者：634名

※主な来賓：ブラジル連合会より蓮沼アレシャンドレ秀男会長と大竹るみ役員、また喜多方市長、北塩原村長、駐日フィリピン大使館次席大使他

イ. 内容

第1部 祭典 12時30分～13時20分（司会：毛利大介）

- ・新「誓願」カジュアルバージョン披露
（演奏：さいたまシティジュニアコーラス）
- ・フィリピンステージ「ミリオン ドリームス」
- ・動画「Supporting Your Dreams! ～おめでとう！120周年～」

第2部 式典 14時～15時（司会：吉永蒼天、怜奈）

- ・黙とう
- ・国歌斉唱（演奏：東京ベルズ）
- ・新「誓願」フォーマルバージョン披露（演奏：東京ベルズ）
- ・主催者挨拶：理事長 御手洗 康
- ・創立120周年功労者特別表彰
- ・第20回SYDボランティア奨励賞表彰
- ・秋篠宮皇嗣殿下おことば
- ・祝辞 文部科学副大臣 小林 茂樹様
修養団後援会常任幹事 高岡 英則様（三菱金曜会事務局長）
- ・未来へのメッセージ～Love & Action～
（能登の制服支援を受けた中学生、日本・フィリピンの青年）
- ・「世界がひとつになるまで」全員合唱
- ・閉会のことば：主幹 山崎 一紀

（2）祝賀・交流のつどい 15時20分～17時 （司会：立川らく次）

ア. 参加者：488名

イ. 内容

- ・主催者挨拶：専務理事 真下 淳一
- ・乾杯の発声：石田博嗣修養団広島県連合会会長
石田雅也修養団広島県連合会監事

- ・石巻の参加者紹介
- ・能登の中学生の紹介
- ・東京ベルズ演奏
- ・学資支援者と奨学生の紹介&インタビュー（４組）
- ・フィリピンの子どもたちのダンス披露
- ・閉会の挨拶：理事長 御手洗 康

（３）ロゴマーク

実行委員会で検討し、作成。『向上』『愛』やチラシ、報告書等の印刷物に使用したほか、シールを作成し、発送封筒や名刺等に貼付して使用した。また、記念大会の参加者の認識票に使用するネクストラップの絵柄とした。



ロゴマークの丸いシルエットは地球を、人々が手を取り合うシルエットは“努力”や“行動”を象徴する「汗＝Action」を表現し、その「汗」によって「愛＝Love」の木が育ち、成長していく様子が描かれています。

「愛」と「汗」がつながり、未来を共に築いていく希望を表現し、地球上すべての人々が心身ともに健康で、充実した生活を送ることができる未来への願いを込めています。

私たちは、『愛と汗』の原点に立ち返り、これからも“ともに未来へ”幸せの種まきを実践してまいります。

（４）記念品

フィリピンのゴミ山で暮らし、SYDの学資支援を受けデザインの勉強をしているアリッサのデザインによるエコバッグを作成し、ロゴマーク入りのネクストラップをはじめ下記を大会記念品として参加者に配布した。

- ・エコバッグ
- ・ネクストラップ（参加者認識証として使用）
- ・金平糖（エコバッグと同デザインをプリントした容器）
- ・書籍『自分を育てる―「蓮沼門三の言葉 110」を読む』
- ・書籍『A Jのパヤタスレポート』

（５）記念大会実行委員会と部会長会議の開催

創立120周年記念大会の開催準備のため、令和6年10月に発足されたプロジェクトチームでは、月2回会議を開催し、諸準備の検討を進めてきたが、令和7年4月からは本部役職員全員が各部会のメンバーとなる実行委員会を設置し、大会にむけて各部会で担当する役割の検討・準備を進め、さらに部会長会議を月2回開催し、重要事項の検討や情報共有、進捗状況を報告し、大会開催に向けて準備を進めた。また、大会運営については、90、100、110周年と携わった(株)グロウディアに協力を依頼した。

発足日：4月1日

部 会：①総務部会：鈴木（部会長）、内田、境、谷野、林

②参加・表彰部会：市島（部会長）、保坂、古城門、板倉、甲賀、鈴木（兼務）

③行事部会：山口（部会長）、栗原、増田

④事務局：岩佐、中野、志村

(6) 皇室関係

- ・令和6年 2月19日 東宮職へ大会への秋篠宮皇嗣同妃両殿下ご臨席のお願いのため訪問（開催日案：令和7年10月か令和8年3月）
- ・令和7年10月 4日 東宮職へ開催日案を令和8年3月の方向で進めたい旨、連絡。
- ・令和7年 9月23日 皇嗣職より、令和8年3月20日（金・祝）14時からの式典に秋篠宮皇嗣同妃両殿下がご臨席くださることの内定通知があった。
- ・令和8年 2月12日 秋篠宮皇嗣同妃両殿下に大会の内容についてご進講のため秋篠宮邸訪問（理事長、主幹、随行：岩佐）
- ・令和8年 2月16日 宮内庁、皇宮警察、警視庁、主催者による現地調査
- ・令和8年 3月25日 御成御礼記帳のため御手洗理事長が秋篠宮邸訪問（随行：岩佐）

(7) フィリピンの子ども親善大使招聘のためのクラウドファンディング

創立120周年記念大会でパフォーマンスを披露してくれるフィリピンのゴミ山周辺で暮らす子どもたち15名と引率者2名を招聘する費用の一部にするため、またこの事業を会員以外の人たちへも広め協力してもらうため、クラウドファンディングを立ち上げた。目標額300万円を目標としたところ、166名、3,824,000円の支援金が集まった。

(8) 協賛金について

関係各社に協賛金のお願いをしたとこと、30社より3,920,000円の協賛金をいただいた。協賛金は記念大会の費用の一部に充て、また当日のスタッフジャンパーにロゴを掲載（ロゴ掲載不要の会社も有）、また、大会パンフレットにご芳名を掲載し、感謝の意を伝えた。

(9) 「誓願」編曲について

修養団創立者・蓮沼門三が自らの人生指針として、また修養団の信条として大正14年に作られ、「愛と汗」の修養団の基本理念を表している。この「誓願」に曲がつけられ修養団の愛唱歌として歌い継がれてきた。今回、創立120周年を機に作曲家・外山和彦氏に編曲を依頼し、子どもたちが歌いやすい【カジュアルバージョン】と、式典等で大人が歌う【フォーマルバージョン】の2つを作成した。

2. 大会記念品としての出版物の制作

(1) 書籍『自分を育てる―「蓮沼門三の言葉110」を読む』の発行

創立120周年の記念出版として、山崎一紀主幹が機関誌『向上』に9年2か月にわたって連載した『蓮沼門三の言葉110』を読む』をまとめた書籍を制作し、「創立120周年記念大会」の記念品として大会参加者へ贈呈した。また、大会後は教育図書として販売を行うこととした。

体 裁 四六版 256頁

部 数 800部

販売価格 1980円（10%税込）

(2) 書籍『A Jのパヤタスレポート』の発行

機関誌『向上』に連載されている【A Jのパヤタスレポート】は7歳からSYD子ども学資支援を受けているA J（エイプリル・ジョン・パブラドール）が15歳（2013年5月）から連載をはじめ、12年（140回以上）続き、好評を得ている。

貧困と共に生きるフィリピンのゴミ山周辺の子どもたちが、いかに心豊かで、家族思いで、明るく逞しく生きているのかを、そこに暮らす感性豊かなA Jの視点でとらえ、彼らの日々の問題や貧困の実態などがより深く理解できる。

このレポートから抜粋したものを冊子にし、「創立120周年記念大会」の記念品として大会参加者へ贈呈し、大会後は過去の事業参加者、また今後各種事業に参加する青年たちに配布し、SYDのフィリピンでの活動をはじめ「愛と汗」の精神を理解してもらい、協力者・支援者を増やしていくために販売し、その収益金は「幸せの種まき献金」とする。

体	裁	B 6 版	9 6 頁
部	数	1, 2 0 0 部	
販売価格		5 5 0 円	(1 0 % 税込)

令和7年度事業報告には「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成しない。

令和8年3月

公益財団法人 修 養 団

令和 7 年度 後援会活動報告

修養団は令和 8 年 2 月 1 1 日に創立 1 2 0 周年を迎えました。また、当後援会は修養団の活動を財政的に応援しようと大正 1 4 年に渋沢栄一翁が中心となり設立され、1 0 0 年を迎えました。修養団も当後援会もこのように長い歴史を紡ぐことができましたのも、ひとえに永年にわたる会員ならびに関係者の皆様のご支援、ご尽力の賜物と心より厚く御礼申し上げます。

さて、令和 7 年度の後援会活動は、7 月 7 日に開催された役員会において決定された事業計画に基づき、募金目標額 12,000,000 円の達成をめざして 7 月下旬より活動を開始しました。三菱グループ、三井グループ、住友グループ、日本製鉄、UBE、フジタ、キッコーマン、日立システムズ、北越コーポレーション、東芝、東京ビル整美等々法人会員 9 6 社、個人会員 1 2 8 名の方々の深いご理解と温かいご支援により、11,270,000 円の会費収入を得る事ができました。

なお、会費収入のうち経費を除いた金額 10,915,859 円を後援会の助成対象事業である「青少年の健全育成」「家庭教育の推進」「社会教育指導者の育成」の 3 事業支援のために修養団へ繰り入れさせていただきました。

令和 7 年度も修養団は様々な事業を活発に行ない「愛と汗」の精神を広げることができました。

ここに謹んで後援会役員をはじめ全国の法人会員、個人会員の皆様の貴いご支援、ご協力に対し、心より感謝を申し上げます。

1. 会員移動状況

(1) 新入会員 〈法人会員：1 社、個人会員：8 名〉

(東京都) 中央印刷事務器(株).....

(東京都) 塚田 茂、木下 雄人、木下 晃代 (千葉県) 梅澤 一雄 (栃木県) 市川 哲也 (三重県) 大平 順一、宮崎 玲良 (広島県) 柿本 和彦

(2) 逝去会員 〈個人会員 1 名〉

(神奈川県) 保坂 正志

2. 募金活動

(1) 募金目標・募金実績 (単位・円)

〈募金目標〉

法人会費 10,000,000 円

個人会費 2,000,000 円

合 計 12,000,000 円

〈募金実績〉

法人会費 9,850,000 円 (96 社)

個人会費 1,420,000 円 (128 名)

合 計 11,270,000 円

(2) 募金方法

ア. 文書活動

7 月 1 1 日に開催された後援会役員会で承諾された事業計画にもとづき、7 月下旬より募金活動を開始。令和 7 年度会費納入のお願い書を法人、個人会員宛に発送した。

イ. 訪問活動

7 月下旬に関東地区法人会員各社を訪問し、平素のご支援の御礼とご協力のお願いをした。

3. 広報活動

- (1) 修養団機関誌『向上』6月号に令和6年度の後援会会員名簿を掲載、協力の御礼と感謝の意を表すると共に令和7年度をお願いをした。
- (2) 『向上』(令和7年度5月号より1年間)及び令和8年版「日々の力」を法人、個人各会員に贈呈した。

4. 会 議

(1) 役員会

※=web 出席

開催日 7月7日(火) 11時～13時

出席者 常任幹事：弘中聡、高岡英則、平岡真一※、笠原隆、新田一文

監 事：山根健嗣

議 事 ア. 令和6年度後援会事業報告並びに収支報告及び監査報告について

イ. 令和7年度後援会事業計画(案)及び収支予算(案)について

ウ. 令和6年度修養団主要事業報告並びに令和7年度修養団主要事業計画について

5. 収支報告 (4月1日～令和8年3月31日)

(単位：円)

貸 方 (支出)	科 目	借 方 (収入)	前年度 (収入)
	会費収入 (法人)	9,850,000 (96 社)	9,850,000 (96 社)
	〃 (個人)	1,420,000 (128 名)	1,490,000 (134 名)
10,915,859	修 養 団 後 援 金		
8,912	旅 費		
12,870	印 刷 費		
101,932	通 信 運 搬 費		
184,800	消 耗 品 費		
32,076	会 議 費		
13,551	雑 費		
11,270,000	合 計	11,270,000	11,340,000